

# トータルブレインの マッシュアップ 前線

## 首都圏35路線の実力検証

トータルブレイン（久光龍彦社長）はこのほど、「首都圏で本当に実力が高いのはどの路線か？」と題したレポートをまとめた。沿線にはそれぞれ特有のイメージがあるが、それが本来の実力（沿線力）とマッチすると限らない。そこで、首都圏の通勤35路線をピックアップし、①都心へのアクセス力（都心直通路線・アク

セス時間）、②路線の輸送力（運行本数・運行速度・混雑率・遅延率・運賃など）、③駅力・街力（乗降客数・商業・公共・医療施設集積度・賃料相場）、④沿線マーケット力（人口・世帯数・増加率・平均年収）の4項目で、路線の持つ本来の実力を検証した。総合ランキングは別表の通り。上位には、京浜東北線（南）や東海道本線、東西線、総武線、中央線といったJRを中心とした都心直結路線が並び、職住近接がキーワードの今、「東京の中枢オフィスエリアへのアクセス性の高さ」が沿線力のポイントであることが分かった。

4項目それぞれのランキングを見ると、「都心アクセス力」のトップは京浜東北線（南）で、2位が東海道本線。東京駅を基点としたJR路線が強い。そのほかは、東西線や丸ノ内線、東急目黒線、田園都市線、都営三田線といった地下鉄線または地下鉄直通線が目立った。

## 都心直結アクセスがカギ

「輸送力」では、複々線化で一気に輸送力が増した小田急線が2位にランクアップ（以前は8位）。そのほか上位には、京急本線（1位）、西武池袋線（3位）、東武東上線（同）、京王井の頭線（5位）が並んだ。

「駅力・街力」では、1〜4位（東海道本線、京浜東北線（南）、総武快速線、京浜東北線（北））までJR線が独占した。小田急線（20位）や田園都市線（21位）は意外に低位だった。

順位	路線名
1	京浜東北線（南）
2	東海道本線
3	東西線
4	総武快速線
5	中央線
6	東急田園都市線
7	東急東横・みなとみらい線
8	京浜東北線（北）
9	東急目黒線
10	宇都宮・高崎線

また、同レポートでは、今回検証した35路線の駅（581駅）について、駅力ランキングを算出した。算出のベースとした項目は、各駅の半径1キロ圏の人口数・増加率、借家世帯数・増加率、平均年収、商業施設集積度、ワンルーム賃貸マンション賃料相場、特急急行停車の有無、乗り入れと分析している。

駅力総合ランキングは、1位が東京駅、2位が横浜駅だった。次いで上野や新宿、新橋、池袋、大宮、品川、渋谷、秋葉原など。トップ10にはJR山手線のビッグターミナル駅が並び、それ以降でもJR線の人気ターミナル駅が上位を占めた。30位までの駅で、JR線以外は大手町と日本橋の2駅のみだった。

同レポートでは、「今、沿線力に必要なものは、都心アクセス力と、駅力・街力であり、まさに路線に求められるものが通勤利便性と生活利便性の高さに絞られてきた。今後も路線には職住近接、つまり都心直結アクセス性の高さがより強く求められていくだろう」と分析している。